

のどの不快・不安 半夏厚朴湯が効く

Q 四十八歳、主婦。最近ささいなことでのどに何かが詰まったような不快感があり、胸が苦しく、左腕もしびれます。このまま呼吸が止まるのではないかと不安に思い、今年になって三回も夜間、救急車で病院に行きました。狭心症の疑いで検査も受けましたが、内科・耳鼻科とも「異常なし」との診断でした。漢方によい薬はないでしょうか。

A 質問者からの手紙は便せん五枚にわたるもので、上記はその要約である。丁寧な字で自分の症状や経過などを詳細に記し、さらに「受験を控えた息子がバイクの事故を起こしてから症状が出始めた」「夫の転勤が重なり、気苦労が絶えなかった」「万が一、外出先で具合が悪く

なった時のため連絡先などを持ち歩いている」などと、こと細かに書いてあった。

このような症状は多分にその人の性格を表しており、「予期不安」（命にかかわる病気になつたらどうしようという不安にかられること）といわれるものである。耳鼻科で「咽喉頭（いんこうとう）異常感症」という病名が見つかることが多い。このタイプはストレスに身体が鋭敏に反応して種々の症状が起きやすい。

漢方の古典には、こうした症状には半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）という処方がよいと書かれてある。特に質問者のように狭心症に似たのどから胸にかけての不快感や腕のしびれを伴い、西洋医学的な諸検査に異常がみられない場合は極めてよく効く。